

編集後記

アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル (AJJ) 第 6 号は、研究論文 2 編、実践報告 4 編、調査報告 5 編の計 11 編の掲載となった。多様な対象への長期にわたる調査や実践をもとにした論考が多い。アカデミック・ジャパニーズの実践は、多くの場合、変容のプロセスを経るといふことなのかもしれない。会員の皆様には、今後もぜひ日々の実践や考察の成果を、AJJ に投稿していただきたい。

また、毎回の編集後記にも述べていることではあるが、非会員の読者の皆様には、Web ジャーナルを見て本研究会に興味を抱かれたならば、ぜひ定例研究会 (例年 6 月、11 月、2 月の 3 回) にもご参加いただき、研究交流を深めていただきたい。

(編集委員 Y.O.記)

刊行 : 2014 年 7 月

編集委員* (**は委員長)・アドバイザー (AJG 幹事および協力者・五十音順)

有田佳代子 (敬和学園大学)・江森悦子 (アークアカデミー)・**大島弥生 (東京海洋大学)

太田裕子 (早稲田大学)・大野早苗 (順天堂大学)・小笠恵美子 (東海大学)

*影山陽子 (日本女子体育大学)・門倉正美 (元横浜国立大学)・木下謙朗 (東京福祉大学)

斉木ゆかり (東海大学)・佐藤正則 (早稲田大学)・清水まさ子 (国際交流基金)

高橋薫 (東洋大学)・田中信之 (富山大学)・トンプソン美恵子 (東京海洋大学)

二通信子 (室蘭工業大学)・久川伸子 (東京経済大学)・福岡寿美子 (流通科学大学)

*ボイクマン総子 (東京大学)・宮崎七湖 (早稲田大学)・山本富美子 (武蔵野大学)

吉田美登利 (東京工業大学)・脇田里子 (同志社大学)